

研修レポート

富士川町役場 上下水道課 下水道担当 佐々木 彪暉

研修名 実施設計コース管きょ設計Ⅰ（第1回）

研修期間 7月30日から8月10日

研修先 埼玉県戸田市 日本下水道事業団研修センター

参加人数 46名

日本下水道事業団が開催している実施設計コース管きょ設計Ⅰ（第1回）を受講いたしました。今回の研修では、実習研修だけではなく下水道の概要などの講義や施設研修などがありました。

講義では下水道の基礎知識として日本の下水道の歴史を知るところから始まり、下水道法、下水道の役割、下水道の仕組み・種類、下水道事業の基本的な政策を学びました。現在下水の処理はとても発達していて、活性汚泥法などの2次処理ではフナが生活するくらいきれいにすることができるが、さらに高度処理をすることでホタルなどが住み着くくらいまできれいにできる技術があることを知りました。また、処理された水は新幹線の清掃に使われたり、ヒートアイランド対策として道路に散水に使われたりなどと多くの場所で使われていることを知りました。

施設研修では茨城県つくば市にある日本工営株式会社中央研究所へ行きました。日本工営株式会社中央研究所は耐震工事に使われる工法の一つであるフロートレス工法を開発した研究所でした。そのため、フロートレス工法のデモ実験を見学することができました。消散弁をつけるだけで浮上を抑えることができるのかと思っていました。しかしデモ実験を通して浮上を大幅に抑えることができるのだと知りました。

実習研修では、実際に現場に行き距離等を測量、マンホール及び汚水枳の設置位置を決めました。その後、現場で測量したデータをもとに図面を作成しました。完成した図面から数量を拾い、土留め工の工法を選定しました。それを基に積算をし、設計書の作成を行いました。日ごろ、通常業務の上では、測量や図面作成、土留め工の工法選定は業者委託のため行う機会が無いのでとても良い経験をすることができました。また、積算をコンピューターに頼らず単価を拾うところから、すべて手書きで行ったため金額がどういう流れで積み上がっているのかを知ることができました。

今回の研修は日本全国から研修生が集まりました。北は青森県、南は鹿児島県までのとても広い範囲から参加しており多くの方と情報交換をすることができて研修以外のところでも勉強になることが多く、とても有意義な2週間を過ごすことができました。

今回の研修で学んだことをこれからの業務に役立てていきたいです。